

現代文芸コース 春季大学院進学説明会



「現代文芸コース」とは？



- 現代文芸コースは、博士後期課程をもたない修士課程のみからなる点を特色とする。
 - 現代の文芸の諸相を幅広い視野から学際的に横断的に学べるようなカリキュラムが用意され、文学を含む文化現象への多様なアプローチ方法にふれることができる。
- 例) 世界文学やジェンダー研究の視点から人間の文化的営みを総合的に考察することによって、現代の文化・文学の多層性をよりよく理解するための学問的方法や批評的思考を獲得することができる。
- 本コースの授業の対象は、小説、詩、批評、翻訳論、メディア論など多岐に及ぶ。この学問的環境のなかで各学生が、アカデミックな視点・学術的観点を身に着け、様々な学問的枠組みや方法を尊重しつつ、同時に自由に柔軟に、みずからの問題意識を深化発展させ、新たな時代に対応できる豊かなでしなやかな知性と想像力を養うことを目指す。

現代文芸コース教員紹介（1/2）



マヌエル・アスアハラモ先生

専門分野：比較文学と翻訳論、
世界文学論、
世界におけるラテンアメリカ文学、
日本文学の流通



市川真人先生

専門分野：主として日本の20世紀以降の
文学と、その環境としての
紙メディアから電子媒体まで



岩川ありさ先生

専門分野：フェミニズム、
クィア批評、
トラウマ研究



小野正嗣先生

専門分野：現代フランス語圏文学、
世界文学論、文芸創作



菊池有希先生

専門分野：日本の近現代詩を中心とする
比較文学

現代文芸コース教員紹介（2/2）



草野慶子先生

専門分野：20世紀ロシア文学、
比較文学



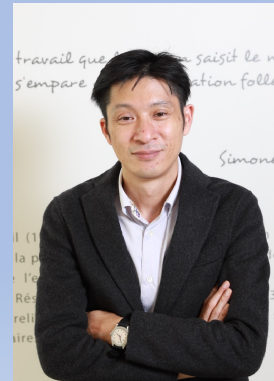
堀江敏幸先生

専門分野：創作（小説・批評・エッセイ）



小松史生子先生

専門分野：日本近現代文学・大衆文化



橋本一径先生

専門分野：イメージ文化史



松永美穂先生

専門分野：現代ドイツ文学・翻訳論



マヌエル・アスアヘアラム先生



専門分野：比較文学と翻訳論、世界文学論、
世界におけるラテンアメリカ文学、日本文学の流通

(2024年度春学期 現代文芸演習)

副題	20・21世紀の世界文学研究とポストコロニアル文学論
授業概要	この講義では、世界文学論(World Literature Studies)におけるポストコロニアリズムが課題として残っている現象について考えて行く。『オリエンタリズム』(1978)の著者エドワード・サイドが『イスラム報道——ニュースはいかにつくられるか』(1994)などで示したように、テレビやラジオなどといった現代のメディアを通して<世界>が表象されている以上、その<世界像>が、自国の文化空間で優越的な立場から君臨する様々な言説によって影響せざるを得なくなっているという。こうして、アメリカから見た中東だけではなく、例えばヨーロッパから見たアフリカや中国から見たアメリカなど、他国の文化を同化し得ない<他者>のものとする傾向があり、中立性をなくす危険が常に伴っている。一方では、21世紀が明けてから文学研究において一層盛んに議論されている世界文学論は、グローバル時代における自国文学と他国文学の関係について横断かつ学際的に考える試みとして生まれてきたのである。しかし、2010年にAamir Muftiが発表した論考“Orientalism and the Institution of World Literatures”の中ですでに議論しているように、現在、世界文学について考えるためには、ポストコロニアリズムが残してくれた課題を忘れてはいけないという。 したがって、この講義では、世界文学論を成立させた比較文学者のデヴィッド・ダムロシュ、パスカル・カザノヴァ、フランコ・モレッティなどが提案した世界文学論の基礎知識を得た上で、エドワード・サイドをはじめ、ガヤトリ・C・スピヴァク、ホミ・K・バーバ、アーミル・マフティの論考も取り入れる。 この講義では上述の枠組みを用いながら、植民者と被植民者という不平等な関係の中で生まれる世界文学作品について考える。授業の初めに、上記の理論的な枠組みを説明してから、毎回世界各地で書かれたポスト・コロニアル文学の作品を受講生と読み解いていきたい。
到達目標	受講者に文学作品をポストコロニアル的に読むノウハウを養っていききたい。そして、世界各地からのポストコロニアル文学の魅力を感じると共に、今もなお世界で必要とされているトランスカルチャー的な理解とは何かを考える授業にしたい。

(2024年度秋学期 現代文芸演習)

副題	「グローバル・イングリッシュ」、翻訳研究、そして世界文学について考える
授業概要	本講義で近年の翻訳研究におけるグローバル・イングリッシュGlobal Englishの問題を受講生たちと考えていきたい。具体的に、Lawrence Venutiの『翻訳のスクランダル』<i>The Scandal of Translation</i>、水村美苗の『日本語が亡びる時:英語の世紀の中で』、Aamir Muftiの<i>Forget English!: Orientalisms and World Literatures</i>、Rebecca Walcottの『生まれつき翻訳:世界文学時代の現代小説』<i>Born Translated: The Contemporary Novel in an Age of World Literature</i>、そしてMichael Emmerichの<i>The Tale of Genji: Translation, Canonization, and World Literature</i>からの抜粋をゆっくりと精読し、批評的に考える。これらの著書にある文学理論を把握しながら、翻訳の諸問題を念頭に置きながら文学作品の解読も実践する。
到達目標	受講生たちに海外の文学作品を翻訳研究の視点から読み解くノウハウを養っていききたい。そして、世界各地からの文学を日本語や、その他の言語で読むにあたって、トランスカルチャー的な理解とは何かを考えるようになってほしい。



市川真人先生



専門分野：主として日本の20世紀以降の文学と、その環境としての紙メディアから電子媒体まで

(2024年度春・秋学期 現代文芸演習)

授業概要	実践的な批評の執筆をめぐるプラクティスを行なう。テキストと批評の関係はもとより、批評の／としてのメディアや、その射程についてなど、複合的な要素を踏まえて書くこととは何かを実践に結びつけてゆく。 ※対面ハイフレックスで行いますが、最大で7回、moodleを利用したのオンラインでの授業を行います。
到達目標	・ 批評と研究の差異をふまえた、各自の目標とする進路にのっとったテキストの完成 ・ テキストを構造体としてとらえ、その要素であるブロックとレイヤーの構成を意識することで、より論理的な文章を書けるようになること。
事前・事後学習の内容	学期冒頭に定める発表順に応じて、発表者は発表内容を事前に提出・共有し、発表者以外の者は、発表者がとりあげるテキスト等を読んでおくこと。
授業計画	毎回、発表者を決めて実際の（広義の）批評文を執筆し、輪読のうえ講評および討議を行なう。
成績評価	発表、執筆物、出席状況を複合して評価する。



岩川ありさ先生



専門分野：フェミニズム、クィア批評、トラウマ研究

(2024年度春・秋学期 現代文芸演習)

副題	大江健三郎『大江健三郎自選短篇』（岩波文庫、2014年）を読む。
授業概要	この演習では大江健三郎『大江健三郎自選短篇』（岩波文庫、2014年）を読む。
到達目標	(1)『大江健三郎自選短篇』の短編小説を分析的に読むことができる。 (2)テキストを正確に読み、具体例を示しながら、ディスカッションを行うことができるようになる。
事前・事後 学習の内容	・ 担当者は、先行研究や関連文献を調べた上で、議論を喚起する形で発表できるように準備すること。 ・ 受講者は、テキストを正確に読み、自分が気になった点については調べ、問題意識を持ちながら議論に参加できるようにすること。
授業計画 (春)	第1回 イン트로ダクション1 大江健三郎の文学世界、講義の概要と計画、受講者の自己紹介 第2回 イン트로ダクション2 研究について、短編集の担当箇所・担当回の決定 第3回-第11回 『大江健三郎自選短篇』読解 第12回-第14回 学生研究発表 ＊秋学期の現代文芸演習6-2と連動していますが、6-1のみの受講も可能です。
授業計画 (秋)	第1回 イン트로ダクション1-大江健三郎の文学世界、講義の概要と計画、受講者の自己紹介 第2回-第3回 修士論文・構想発表会 ＊第2回にて担当箇所・担当回の決定 修士論文の構想について、1名20分（発表10分、質疑10分。20分以内なら発表と質疑の時間は調整してもよいです）でしてもらいます。 レジュメはA4用紙なら1枚以内。自分の論文の骨子、要旨のみを発表してください。自身の研究の骨子が何かをまとめる回です。 第4回-第13回 『大江健三郎自選短篇』読解 第14回 1/28 修士論文完成発表会 ＊春学期の現代文芸演習6-1と連動していますが、6-2（秋学期）のみの受講も可能です。



小野正嗣先生



専門分野：現代フランス語圏文学、世界文学論、
文芸創作

(2024年度春・秋学期 現代文芸演習)

副題	短篇小説を精読する
授業概要	# 基本的に対面授業です。 短篇小説を、それがどのように構成されているのかという観点から精読します。 基本的には翻訳を通じて読みますが、英語圏の作品の場合は英語で読む場合もあります。 毎回、担当者を決めて、その発表を受けて全員で議論します。 英語で読む場合、指定された部分の訳文を作ることが要求される場合があります。その場合は、訳文についても全員で議論します。
到達目標	1) 短篇小説がどのように構成されているのかを客観的に分析できる。 2) 理解した内容を、各自の問題意識につなげる。 3) 他の受講生の見解について建設的なフィードバックを行なう。
事前・事後 学習の内容	指定された課題を必ず読んできてください。また、課題ではありませんが、日本や海外を問わず文学作品（とくに小説）を日頃から読むように心がけてください。一般に、事前学習として予習に2時間程度、事後学習として振り返りに1時間程度必要です。
授業計画	優れた短篇小説とされている作品はたくさんあります。本演習では、12作品を選び、毎回、ひとつの作品を取り上げて、それがどのように書かれているのか、構造や表現に注目していねいに分析します。 初回の授業ではイントロダクションとして授業の目的について説明します。 授業担当者が用意したリストの中から全員で12作品を選び、担当者を決めます。 2回目以降は、毎回、担当者による発表を受けて、全員でディスカッションを行ないます。 ただし、受講者の人数や習熟度に応じて、また公衆衛生上の要因によって、授業のスケジュールや内容が変更されることがあります。



WASEDA University

シラバス詳細照会

シラバス詳細照会

菊池有希先生



専門分野：日本の近現代詩を中心とする比較文学

(2024年度春学期 現代文芸演習)	
副題	「二人称の詩学」について考える
授業概要	ドイツ文学者・キリスト教学者・詩人の川中子義勝（1951～）による詩論『詩学講義―「詩のなかの私」から「二人称の詩学」へ』（2020）を読む。本書は、ヨーロッパ、主にドイツにおける〈文学としての詩〉の成立・展開の流れを、宗教詩の世俗化の過程として捉えつつ、前半で詩の言葉が詩人の個性に帰せられるようになるまでを論じ、後半で詩の言葉が「二人称の詩学」に立ち戻って再び世界に開かれたものとなってゆくさまを論じるという構成となっているが、本演習では特に後半部を精読していきたい。後半部の議論では、宮沢賢治、伊東静雄、秋谷豊といった近現代の日本の詩人たちも論及されており、引用されている彼らの詩作品も併せ読みながら、本書の議論への理解を深めていきたい。授業の方法としては、各回担当者を決め、テキストの各章の議論を要約した上で考察したことを発表してもらうかたちで進める。テキストは、特に前半部においてはドイツ語詩への論及が多いが、ドイツ語及びドイツ文学の知識がなくとも問題ない。寧ろ古今東西の世界の文学に開かれた「二人称の詩学」を地道に理解してゆくことを本授業の基軸に据えている。
到達目標	・「二人称の詩学」についての理解を深める。 ・「二人称の詩学」の視点から文芸作品を読み解くことができるようになる。

(2024年度秋学期 現代文芸演習)	
副題	「戦争詩」について考える
授業概要	ドイツ文学者で詩人の瀬尾育生（1948～）の『戦争詩論 1910-1945』（2006）を精読する。本書は、萩原朔太郎、伊東静雄、北園克衛、村野四郎、安西冬衛、壺井繁治、岡本潤などを扱いながら、日本近代の屈折点としてある1910年から1945年の敗戦に至るまでの時期に、日本のモダニズム詩・プロレタリア詩・ロマン主義詩が〈ナショナルなもの〉・〈インターナショナルなもの〉・〈ウルトラナショナルなもの〉とにいかなるかたちで関係してきたのかについて論じたものである。本演習では、本書をガイドとして、日本の近代詩の史的展開のありようとその内的な論理についての理解を得るとともに、現代においても重要性を失わない、〈詩と戦争の関係性〉という主題について考究する視座を獲得することを目指す。授業の方法としては、各回担当者を決め、テキストの各章の各節の議論を要約した上で考察したことを発表してもらうかたちで進める。その際、担当部分において論及されている詩人の作品の読みと関連づけた考察を展開してもらう。
到達目標	・近代日本の「戦争詩」についての理解を深める。 ・詩と戦争の関係性について主体的に考えられるようになる。



草野慶子先生



専門分野：20世紀ロシア文学、比較文学

(2024年度春学期 現代文芸演習)

副題	動物／動物性と文芸研究
授業概要	動物／動物性という観点から、どのような文芸研究の実践が可能か、またそうした実践が人文学研究になにをもたらすかを考えます。 動物と人間の境界はなにか。エクリチュールの動物性とはなにか。種差と性差の問題はどう交差するか。考えていきます。
到達目標	上記「授業概要」に記した内容について一定の理解と知見を持つこと。
事前・事後学習の内容	事前には、指定されたテキストを読み、ディスカッションや発表の準備を行うこと 事後には、授業中に提示された論点について考察することが求められます。

(2024年度秋学期 現代文芸演習)

副題	書簡と文芸研究
授業概要	書簡という観点から、どのような文芸研究の実践が可能か、またそうした実践が人文学研究になにをもたらすかを考えます。 書簡体小説について。文学者の書簡と創作の関係について。書簡の言語・文体について。書簡と政治、書簡とエロティシズムについて。考えていきます。
到達目標	上記「授業概要」に記した内容について一定の理解と知見を持つこと。
事前・事後学習の内容	事前には、指定されたテキストを読み、ディスカッションや発表の準備を行うこと 事後には、授業中に提示された論点について考察することが求められます。



小松史生子先生



専門分野：日本近現代文学・大衆文化

(2024年度春・秋学期 現代文芸演習)

副題	〈恐怖〉の文学史——「家」
授業概要	本演習では、怪奇幻想文学・ホラー小説・怪談と目される、20～21世紀の日本近現代文学のテクスト分析と研究調査を通して、〈恐怖〉を語る言説コードと、そのコードを成立させている時代の感性の変遷を精緻に捉え直すことを目的として運営される。 今年度のテーマも「家」。受講者は「家」にまつわる怪談・怪異現象を語る20～21世紀の日本近現代小説を各自で選択し、作品のテクスト構造・ナラティブ・モチーフ・キャラクター表象などを、記号論・アダプテーション理論・フェミニズム論・メディア論、また民俗学・宗教学・歴史社会学・比較文学等々の理論を用いて分析し、レジュメ発表する。発表の回数や、個人発表か協同発表かについては受講者の数を見て決める。 対象テクストは、第1回目の授業の時に、まず教員がリストアップして配布し、その中から希望者の立候補で決めていく。その際、受講者からの候補作品の意見も参考にし採択する場合もある。全員がテクストを読み込む必要があるので、対象となるのは短編～中編程度の分量とする。 また、怪奇幻想文学・ホラー小説・怪談は映像化されることも多いため、そうしたメディアミックスの面についても受講者は資料を収集し、発表を補強してもらう。
到達目標	①文学作品が言説コードによって成立していることを深く理解し、その言説コードの形成には、その当時の社会構造・認識概念が関わっていることを具体的に説明できるようになる。 ②〈恐怖〉という切り口を通して、同時代の様々な社会現象を人々がどのように咀嚼し、物語構造に投影して享受しているかを洞察できるようになり、各方面の言説場におけるリテラシーを養うことができる。
事前・事後学習の内容	・自分の担当作品のみならず、他の受講者の発表作品も事前に読み込んでおく必要がある。 ・精読と同時に、速読の技術も習得する。 ・古今東西の文学作品や文献、様々な学問領域についての知識が必要になるので、読書の時間を確保する必要がある。



松永美穂先生



専門分野：現代ドイツ文学・翻訳論

(2024年度春学期 現代文芸演習)

副題	3人の女性作家の初期作品を読む
授業概要	この授業では、倉橋由美子、多和田葉子、村田沙耶香という年代の異なる3人の女性作家のデビュー時にスポットライトを当て、彼女たちがどのような環境や影響関係のもとで初期の作品を書き、どのように評価されていたかを探り、その後の到達点を確認していく。
到達目標	三人の作家について、ある程度まとまった分量の作品を読んで、それぞれの特徴や共通点・相違点などを発見し、文学史のなかにあらためて位置づけていく。

(2024年度秋学期 現代文芸演習)

副題	作家の移動と言語
授業概要	歴史を振り返れば、人の活動には移動がつきものであった。現代では、交通手段の発達とグローバル化のもとで、より広範囲にわたって人々が移動している。そのなかで、文学の創作を行う人々の頻繁な移動や、移住・亡命なども見られ、複数言語で執筆する作家も少なくない。本授業では、国籍を問わず作家の移動に注目し、そのことが創作に与える影響について考えていく。対象とする時代は20世紀以降。
到達目標	グローバル化の文脈のなかで、移動と言語、創作、出版などの関係について、個別例を集めつつ検討する。

専門分野：創作（小説・批評・エッセイ）

（2024年度春学期 現代文芸演習） ※2025年度は特別研究期間のため休講

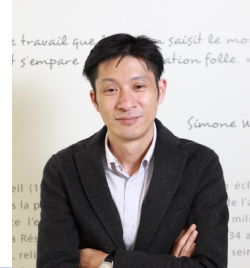
副題	島崎藤村の短篇を読む
授業概要	島崎藤村は詩から散文へと移行するなかで多くの短篇を残した。同時期に刊行された感想集や書簡等を適宜参照しながら、短篇という形式において藤村が試みたことがらを読み解く。
到達目標	藤村の短編の題材、形式の多用性と、にもかかわらず護持されているひとつの《声》を聴き取り、長編小説読解の準備とする。
事前・事後学習の内容	作品ごとに、履修者の専門領域、研究主題、興味関心に応じた発表を行う。担当回のレジュメ作成と履修者への事前共有を前提とするため、十分な準備が求められます。

（2024年度秋学期 現代文芸演習） ※2025年度は特別研究期間のため休講

副題	アルベール・カミュ『ペスト』を読む。
授業概要	春学期に扱った島崎藤村の短篇「子に送る手紙」には関東大震災で被災した作家の眼差しが生きていた。地震や疫病といった人智の及ばぬ災厄を、言葉はどのように処するのか、もしくは災厄の前でどのように処されていくのか。そのありようを1940年代、アルジェリアのオランで流行したペストを題材にしたカミュの小説のなかに探る。
到達目標	災禍にあっても延命する言葉とはいかなるものかについて考察を深めることができる。
事前・事後学習の内容	履修者の専門領域、研究主題、興味関心に応じた基調報告・発表を行う。担当回のレジュメ作成と履修者への事前共有を前提とするため、十分な準備が求められる。



橋本一径先生



専門分野：イメージ文化史

(2025年度 現代文芸演習)

授業概要

「指紋」の歴史を扱った博士論文を皮切りに、これまでイメージと身体を考える研究をしてきました。2025年度の現代文芸コースでは、写真とテキストの関係を考えたいと思っています。小説や戯曲などのフィクションに登場する写真や、写真批評・写真論など、テキストの中に記述された写真はもちろんのこと、パスポートや身分証に貼られる写真は、私たち自身の身体を書類という一種のテキストに変えているのだとも言えます。このように広い意味での写真とテキストの関係について考察しながら、現代の私たちにとって写真とは何なのかを考える糸口を得られればと思っています。

過去の入試問題

早稲田大学入学センターの以下のサイトで過去3年分の問題の閲覧が可能です。

https://www.waseda.jp/inst/admission/graduate/past_test/

(大学院入試情報→過去の入試問題→該当年度の文学研究科 修士課程)

The screenshot displays the Waseda University Admissions Center website. At the top, there is a navigation bar with links for MyWaseda, お問い合わせ (Contact Us), サイトマップ (Site Map), 寄付 (Donation), アクセス (Access), データ集 (Data Collection), 検索 (Search), and Language. Below this, the main header features the Waseda University logo and the text "Admissions Center 早稲田大学 入学センター".

The main content area is divided into several sections. On the left, there is a "Quick Link" dropdown menu. In the center, there is a navigation menu with the following items: ニュース (News), イベント (Events), 学部入試情報 (For Undergraduates), 大学院入試情報 (For Graduates), and その他の入試情報 (Other Entrance Exam Information). The "大学院入試情報" section is highlighted with a red box, and a red arrow points to the "過去の入試問題" (Past Entrance Exam Questions) link within this section.

Below the navigation menu, there is a breadcrumb trail: ホーム > 大学院入試情報 > 過去の入試問題. The main content area is titled "For Graduates" and "大学院入試情報". At the bottom, there is a "Past Test" section with a link to "過去の入試問題".

On the right side of the page, there is a sidebar with a list of links: 入学試験情報 (Entrance Exam Information), 入試要項・願書 (Entrance Exam Requirements and Application), 入学案内・パンフレット (Entrance Guide and Pamphlet), 入学金・学費・諸会費 (Entrance Fee, Tuition, and Other Fees), 奨学金 (Scholarship), 大学院合同説明会 (Graduate School Joint Explanation Meeting), Waseda Course Channel, and Q&A. The "入学試験情報" link is highlighted with a red box and a red arrow points to the "過去の入試問題" link in the main content area.

よくあるご質問（1/2）



◇冬期入試はおこなわれないのですか。

〔答〕 9月入試のみの予定です。

◇これまで横断的研究に馴染みがないのですが、外部から入学した場合、大学院の授業に適應できるでしょうか。

〔答〕 指導する側として出身校による違いは感じられません。副指導員制度もあるため、馴染みやすいのではないのでしょうか。外部から入学した学生数は少なくありません。学生さん同士が情報交換しながら、問題なく授業についていけると思います。また、留学生や外部からの進学者のみなさんが豊かな学術環境を作ってくださっていると感じています。

◇現代文芸コースに進学するにあたり、参考となる教科書をいくつか教えてほしいのですが。

〔答〕 教科書として特に共通したものではありませんが、強いて言えば、理論書を読むより、文学史を読みつつ、古典とされる文学作品に広く親しんでほしいと思います。また修士の授業についてお知りになりたい場合は、HPの教員紹介の頁に各教員が担当する科目のシラバスが公開されていますので、そちらを参考になさってください。

よくあるご質問（2/2）

◇入学後、修士論文の研究テーマが変わっても大丈夫ですか。

[答] 問題はないです。むしろ、入学後に学び、新たな分野に触れることで、軸はぶれなくても、研究内容が変化する事のほうが多いと思います。

◇大学院を事前に訪問することはできないですか。

[答] 入試前に先生に直接会いに来ることは、入試の公正性という観点から避けてほしいのですが、雰囲気を感じるために助手や講師が在室する現代文芸コース室を訪問することは可能です。

場所：早稲田大学 戸山キャンパス 33号館 7階 704号室

開室時間：月～金 12:00～18:00

（※助手は16:00で退勤し、その後は
論系・コース室TAのみが在室します。）

E-Mail：bungeijournalism3238@gmail.com



ご静聴ありがとうございました！

